

真田 凌太郎さん

2018年度入学、2021年度卒業
株式会社トーセ



現在私は、株式会社トーセでゲームクリエイターとして、ゲーム開発における基本構成の企画や制作の支援に携わっています。

就職したきっかけは、在学中のキャリアプログラムです。

候補企業にあったトーセのプログラムに参加した私は、以降ゲーム開発や業界に興味を持つようになりました。

大学では西洋史ゼミでドイツの民間伝承を研究していましたが、就活時期はこの学問が直接活かない職業を目指すことに、少なからず不安を抱いていました。

しかし結果として、大学時代のゼミやサークル活動で培った、人に伝える・人の思いを汲み取るコミュニケーション力が仕事に大きく役立ち、微力ながらもゲーム開発者の一員として働くことができています。

大学生生活を振り返ると、何を学ぶかではなくどのように学ぶか、を主体的に考えて行動することが重要だったと強く感じています。

▼インタビュー

Q1.歴史学科のよいところは？



その名の通り**歴史に特化している点**だと思います。私はもともと世界史が好きで、大学でも世界史に関したことを勉強したいと考えていました。高校2年生の頃に先生から「歴史の勉強をしたいなら京都府立大学の歴史学科が良い」と紹介してもらったことがきっかけで、府大の歴史学科を目指すようになりました。実際に、過去の先輩方の研究も時代や地域を問わず歴史の幅広い分野にわたって行われています。また、その研究を行う上で欠かすことのできない**文献史資料へのアクセスのしやすさ**も府大の歴史学科のよい点だと思います。

それに加えて学生に対する**先生方のサポートが手厚いこと**、**先生方と親密な関係を築けること**も良い点だと思います。私が卒業論文を作成している時、研究範囲が幅広くなって適切な文献を探すことがとても大変だったのですが、先生が文献を探すのを手伝ってくださったことがあり、とても助かったのを覚えています。

Q2.現在のご職業を選んだ理由は？



やりたいことを仕事にしたいと思ったのが最大の理由です。私は当初、教員を目指して単位を取得していたのですが将来のビジョンがはっきり見えず、ちょうど大学のキャリアプログラムを受けたときに今働いている会社やゲーム業界を知りました。私自身、ゲームが好きなので、やるなら自分の好きなことに関する職業に就きたいと思い、就職活動を進めていく上でキャリアプログラムで出会った今の会社を選びました。実際に入社してからは会社に厳しい上下関係や服装規定がなかったり、フレックスタイム制が導入されていたりと働きやすい環境だと感じています。

Q3.現在の職業のやりがい、大変なことは？



自分が企画や製作に携わったゲームがそのままユーザーの目に映るので、**実際にゲームをプレーして楽しんでもらえる**と、作った側としては非常に嬉しいです。

一方で**専門知識がまったくない**中でゲーム会社に入ったので、それを身につけるのが大変でした。専門学校を卒業して入社する人もいる中で、歴史学科を卒業した私としてはゲーム作りに関しては好きとはいえ、完全に未知の領域です。実際に今もその途中ですが、日々仕事をしていく中で知識や経験を積んでいく必要があります。

Q4.在学中にやっておいて良かったことは？



卒業論文を書くことです。研究テーマは人それぞれだと思いますが、卒論を書くときはテーマ設定から結論に至るまで物事の順序立てを行います。その上でなぜそのテーマなのか、どのような過程を経て結論に達したのか、自分の思考を言語化する必要もあります。この物事の順序立て、思考の言語化はゲーム業界に限らず仕事をする上で必要となるスキルです。これらのスキルを私は卒論の作成過程で得ることができたと思います。

また、**歴史学科以外の人と関わったこと**も良かったと思います。大学ではどうしても、自分と同じ学科内の人たちとしか関わらないことが多くなりがちです。しかし、スポーツ実習などの授業やサークルで他学科の学生と関わることのできる機会は十分にあります。それを活かして様々な人と関わることでより知見を深めることができ、就活の幅も広がったと感じました。皆さんも他学科の学生とのつながりを築いて欲しいと思います。

Q5.民間就職を考えている人にアドバイスをお願いします！



歴史学科から民間就職をする人は少なく、就職先の業界を見ても多種多様だと思います。なので、民間就職を考えている方の中には先輩に相談しづらいと感じている方もいるかもしれません。ですが、どの業界でも就職活動をする上で自己分析など必要なことは同じなので、仮に先輩の業界が自分の志望業界と違っていても**気軽に相談して欲しい**と思います。

私自身、入っていたサークルの関係もありインターンにほとんど参加できないまま就職活動を行い、スタートとしては遅い方でした。就職活動に関して過度に恐れる必要は全くありません。しかし、業界研究や自己分析などを行うのは早いに超したことはないので民間就職を目指す方は早いうちからスタートを切って、自分の目指す道を進んで欲しいと思います。